

付言すれば、この時期には各地方で女子青年会も組織されていた。1920・21年に女子青年会が組織された郡を挙げると、黄海道信川・載寧・安岳・海州・黄州、平安北道宣川、平安南道江西、咸鏡南道咸興・元山・定平、咸鏡北道城津、京畿道江華、慶尚南道釜山・密陽・馬山などで、とりわけ黄海道で多数組織されたことがわかる。⁶⁷ もちろんこれ以外にもキリスト教系の女子青年会がかなりの数存在し、特に中南部地域では女性は主にキリスト教系の女子青年会を組織して活動していた。

(2) 青年団体の趣旨と活動

では、当時の青年会はその設立の趣旨としてどのような目的を掲げたのか。1920年上半期に組織された青年会の例を挙げると、表1の通りである。

表1 1920年上半期に組織された青年会の趣旨と目的

青年会の名称	地域	趣旨および目的
靈光青年会	全南 靈光	趣旨：品性陶冶、通俗的な教養の涵養、体力増進、風紀改善 目的：新聞雑誌購読、学芸会、運動会、遠足会、討論講演会
群山庚申俱樂部	全北 群山	趣旨：知徳体の涵養、美風の助長 目的：図書、新聞雑誌購読、運動部開設、討論会開催
木浦青年会	全南 木浦	趣旨：知育、体育の向上発達
益山青年俱樂部	全北 益山	趣旨：知識の交換、美風の助長、体育発達、文化普及
清州青年会	忠北 清州	趣旨：品性向上、知識啓発、体育奨励、風俗改良
博川青年会	平北 博川	趣旨：知徳体の三育の発達、実業奨励
海南青年会	全南 海南	趣旨：矯風、勤儉貯蓄

表1に見る青年会は、主に郡ないし面単位で組織された青年会だった。これらの青年会は、主として修養のために智徳体の涵養・風紀の改善・実業の奨励・公共事業の支援などを掲げている。また、これらの趣旨を達成するために目標として掲げた事業は、図書・新聞・雑誌の購読、講演会・討論会の開催、運動会の開催などであった。もっとも村落の青年会は若干異なっている。たとえば、黄海道新溪郡美水面芝里の美水青年会は「交誼親睦・知識啓発・風俗改良・農業奨励・公共事業の助長発展」などをその趣旨として掲げていた。⁶⁸

このような中、『東亞日報』は1920年5月26日付の社説「各地域青年会に寄せて」で、青年団体の使命を五つに要約しているが、それは親睦・修養（道徳・風紀改良）・知識交換・体育発達・公共事業（勤儉貯蓄・産業奨励・共同購買・共同組合）などであった。⁶⁹ また、1920年に組織された朝鮮青年連合会の場合も、社会を革新し知識を広く求め、健全な思想により団結し、徳義を尊重し健康を増進し、事業を振興させ、世界文化に貢献することを綱領として標榜していた。⁷⁰ また、連合会は青年団体間の親睦・知徳体の三育・風俗改良・

67 『東亞日報』1920年6月15日、「咸南女子青年会 講演」など参照。

68 妙香山人「農村青年会의 設立을 축함」(『開闢』第7号、1921年1月)44頁。

69 『東亞日報』1920年5月26日、「각 지역青年会에 寄하노라」。

70 『東亞日報』1920年7月16日、「朝鮮青年会連合期成会」。

産業奨励などを主眼に主要事業を定めていた。⁷¹つまり朝鮮の青年運動は、人格修養・実力養成・文化向上・風俗改良などをその主要目標に定めていたのである。

しかるに、このような青年団体の趣旨は先に触れた日本の青年会の趣旨、つまり風紀の改善・陋習の矯正・知識の発達・青年の自覚促進・志気振起・農事改良などとはほぼ同じであった。ただし、相違点があるとするならば、朝鮮の青年団体の場合、公共事業の支援や農業奨励などは珍しかったという点である。これは、朝鮮の青年団体の場合、前述のように村落単位ではなく、主に郡または面単位で組織されていたためである。

それでは、青年会は実際にどのような活動を行ったのだろうか。1920年と21年の新聞記事を見ると、青年会の活動の中で最も大きな比重を占めているのは講演会と討論会である。各青年会は、外部の人士を招聘したり青年会幹部自らが講師となったりして、会員と大衆を対象に講演会を開いて啓蒙活動を展開した。ここでは任意に選んだ1920年8月と21年6月の例を取り上げるが、各青年会が開催した講演会の講演題目を見ると表2のようになる。

表2 各青年会の講演会での演題

主催青年会	講演会演題	『東亜日報』 の記事掲載日
黄海 鳳山新成青年会	「教育の急務」「欧州大戦と吾人の覚悟」	1920.8.12.
全北南原青年会	「改造時代に際し我らの革新」 「我々の青年」	1920.8.14.
平南平原青年会	「汽車は私の模範物」	1920.8.14.
慶北禮安青年会	「歓迎すべき我らの青年会」	1920.8.15.
全南麗水青年会	「勤儉と懶怠」「人生と活動」	1920.8.17.
黄海信川青年会	「教育の急先務」「朝鮮社会を改造せよ」	1920.8.22.
黄海海州郡檢丹面海西青年会	「我々はいかなる青年となるか」	1920.8.22.
咸南高原青年会	「此時何時」「新思想」	1920.8.26.
黄海信川青年会	「青年連合会の使命」「生の一路」	1921.6.3.
平北博川青年会	「過渡時代と青年の使命」「人格論」「団合」	1921.6.4.
慶北大邱青年会	「階級闘争」	1921.6.5.
咸南咸興女子青年会	「現代朝鮮女子の処地」	1921.6.10.
平北定州郡納清亭協成青年会	「新文化建設と朝鮮青年」	1921.6.17.
咸南 定平女子青年会	「朝鮮女子の現在と将来」	1921.6.19.
慶北慶州郡 安康青年会	「青年の責任」	1921.6.20.

表2に見るように、講演の題目は、大半が変化する世界に対する認識、青年の責任と青年会の使命、朝鮮女性の置かれた立場などだった。すなわち講演会は青年層と女性を文明開化に導くために開催されていたのである。ただ、注目されるのは、1921年に大邱青年会が主催した講演会で、社会主義者鄭雲海が「階級闘争」というテーマで講演を行って

71 『我聲』第1号、「연합회회보」100頁。

る点である。極めて例外的ではあるが、この時期にこうしたテーマでの講演も部分的に行われていたことを確認することができる。

続いて、討論会について見よう。任意に選んだ1920年8月と21年6月に各青年会が開催した討論会の主題を見ると、表3のようになる。

表3 各青年会の討論会の主題

主催青年会	討論の主題	『東亜日報』 の記事掲載日
慶北安東青年会	「人格が金銭に勝つ」	1920.8.3.
黄海安岳半島青年会	「柔能勝強」	1920.8.9.
全南和順綾州青年会	「社会発展には金銭が知識に勝つ」	1920.8.14.
咸北城津女子青年会	「家庭教育が学校教育に勝つ」	1921.6.8.
忠北清州青年会	「社会発展には精神か物質か」	1921.6.10.
忠南青陽青年会	「事業成功には誠勤が知識に勝つ」	1921.6.10.

討論会では、金銭か人格か、金銭か知識か、家庭教育か学校教育かといったように、いずれが重要かをめぐって討論を展開していたことがわかる。そして討論の結論はもちろん教育・人格・知識が重要だという方向に誘導されていったのである。講演会と討論会の主題を見ると、当時の青年運動が「文化運動」一般で目標に掲げられていた「文化向上」「実力養成」を志向していたことがわかる。

講演会や討論会以外に各青年会がしばしば開催したものとして、運動会のような体育行事がある。運動会では、競走や「爆弾ゲーム」などを行い、そのほかにも他の青年会とサッカー・野球・テニスの試合などをよく開いた⁷²。また、多くはなかったがシルム（朝鮮式相撲）大会を開催することもあった⁷³。青年会の中には素人劇を公演するものもあった。たとえば、1921年6月、寶城青年会は、「自然の愛と神秘の情」「人生の万華鏡」という題の素人劇を公演しており⁷⁴、同月、元山青年会でも「我の母」「早婚の弊」という題目の素人劇を公演している⁷⁵。青年会の素人劇公演は、多くは風俗の改良を促すことを目的とするケースが多かったと見られる。これ以外にも、青年会は夜学・音楽会・演説大会・伝染病防疫活動・モルヒネ撲滅運動・洪水後の道路や橋梁修理事業など、さまざまな活動を展開した。

3 支配当局の青年運動対策

上述したように、朝鮮においては1919年秋から「文化政治」の空間を利用した青年団体が急速に誕生・発展し始めたが、朝鮮総督府はこれに対する明確な対応方針を当初定め

72 『東亜日報』1920年6月28日、「載寧大運動会 举行」、1921年8月21日、「兩青年会의 蹴球戰」、1921年8月31日「半島青年運動團」。

73 『東亜日報』1920年6月21日、「元山市民脚戲大会」。

74 『東亜日報』1921年6月2日、「寶城青年会 素人劇」。

75 『東亜日報』1921年6月17日、「元山青年会 素人劇」。